



学校だより  
スクールフォーラム特別号

# 蓮の実

令和8年1月26日  
金沢市立小坂小学校  
電話 252-6386



<https://kanazawa.schoolweb.ne.jp/1710024>

3学期の授業参観には、保護者の皆様に多数ご来校いただき、ありがとうございました。

学校教育目標のもと取り組んだ教育活動を「めざす子ども像」ごとにまとめ、「学校だより～スクールフォーラム特別号～」としてお知らせします。保護者・地域の皆様のご支援・ご協力のおかげで、今年度の教育活動を進めることができました。心より感謝申し上げます。また、学期末の学校アンケートにご回答いただきまして、重ねてお礼申し上げます。今後の教育活動に生かしていきたいと思っております。今年度も残りわずかとなりましたが、引き続きご協力よろしくをお願いいたします。

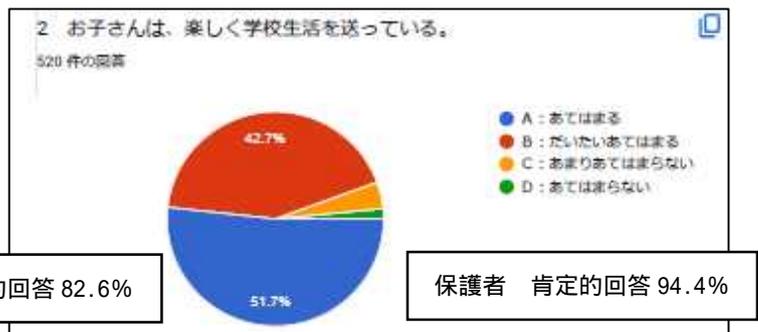
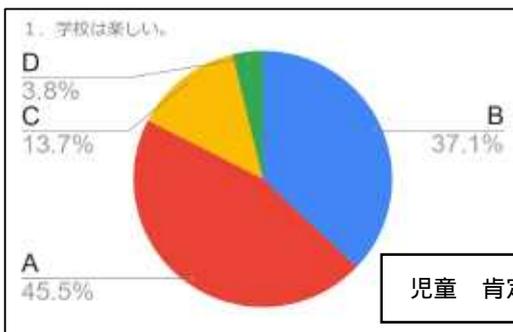
<児童アンケート>

Q. 学校は楽しい

<保護者アンケート>

～学校アンケートより抜粋～

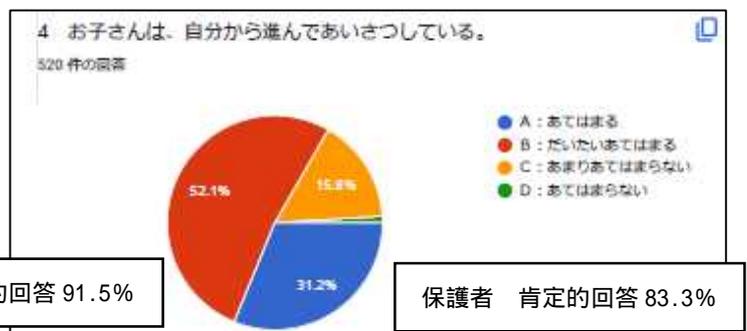
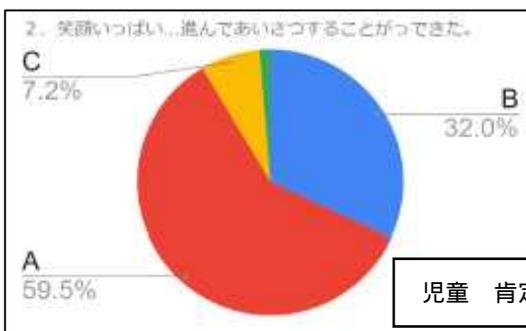
Q. 楽しく学校生活を送っている



「学校は楽しい」という問いに対して、多くの児童が「A あてはまる」「B だいたいあてはまる」と回答してくれました。肯定的回答 (A+B) は 82.6% でした。また、保護者の方からも「お子さんは楽しく学校生活を送っている」という回答をたくさんいただきました。しかし、「あてはまらない」児童も見られます。どの児童も「学校は楽しい」と感じることができるよう今後も教育活動を進めていきたいと思っております。

Q. 進んであいさつできた

Q. 進んであいさつしている



「あいさつ」については、保護者アンケートより児童アンケートの方が肯定的回答の割合が高く、児童は進んであいさつをしている意識をもっているようです。学校でも定着・向上にむけて引き続き指導をおこなっていきます。あいさつのほか、基本的な生活習慣の定着には、ご家庭の協力が不可欠です。今後も本校の教育活動にご協力よろしくをお願いいたします。

## 学習部会 「確かな学力」

### 1 今年度の取組 ～ともに学ぶ子～

#### (1) 思いや考えを伝え合う

##### 課題意識のある授業

教師は、児童の興味関心を引き出すことができるように授業の導入を工夫し、既習や生活経験から解決の見通しをもって学習を進められるようにしました。課題意識が高まり、考えをもてた児童は、「自分の考えを伝えたい!」「友達の考えを知りたい!」という思いが膨らみ、ペアやグループでの意見交流が活発になりました。

##### 自己決定の場がある授業

学習課題を解決するために、ペアやグループなどの学習形態や、図や式などの表現方法、ノートやICT端末などの思考ツールを児童自身が選択できる授業を構成するようにしました。教師の指示で一斉に動くのではなく、めあてに向かって、自分で学び方を決めることで、友達との意見交流も目的意識のあるものになりました。友達と伝え合うことを通して、自分の考えに友達の考えを取り入れるなど、自分の考えを再構築する姿も見られました。



ペアやグループでの意見交流



思考ツールを選択できる授業

#### (2) 学んだことを書く

##### 学んだことを自覚できる授業

授業の終末に5分程度の時間を確保し、振り返りを書くことができるようにしました。児童の振り返りでは、「最初は～しかないと考えていたけれど、〇〇さんの～という考えを聞いて、～という考え方もあるとわかりました。」など、友達と「ともに学ぶ」よさを実感しているものもありました。教師にとっても、目指す児童の姿を具体的にイメージして授業を構成することや、児童の学びを把握し授業を改善することにつながられました。



授業終末のふりかえり

### 2 今後に向けて

#### (1) 成果

##### ・学びの実感

2学期の児童アンケートでは、「授業を通して『わかったこと』『深まったこと』が増えた」96%、「授業の課題に対して考えをもつことができた」93%という結果でした。「ともに学ぶ」よさを感じられている児童が多くいると考えます。

#### (2) 課題

##### ・金沢探究スタイルの実践

授業では、まだまだ教師主導で受け身の児童も見られます。そこで、より児童主体の学びを進めるために、次年度はより探究型の授業を進めていきます。探究型とは、児童が、解決したいという思いや願いをもち、学習課題を自分の事として捉え、課題解決に向けて、自ら学びを進めていくものです。

1 今年度の取組 ～思いやりを形に表わす子～

(1) さわやかなあいさつ

生活目標

今年度は特にあいさつを意識してほしいという願いから、生活目標の中であいさつをテーマに取り組む回数を増やしました。具体的には4、5、7、11、1月に設定し、1学期は3回を「あいさつ」を目標にして取り組みました。1月は自分達のクラスで全員が達成できる具体的な内容を決め、取り組んでいます。あいさつはなぜ大切なのか、どうしてしなければいけないのかを考える時間をとることで、児童の中に意識付けをしていきました。

あいさつ運動の実施

教員が、朝や帰りに玄関に立ち、あいさつを行って来ました。また、生活委員会の5・6年生児童も毎朝あいさつ運動を行いました。あいさつ運動を毎日続けていると、1・2年生の低学年児童がボランティアであいさつ運動に加わる姿が見受けられるようになりました。



あいさつ運動

(2) 自己肯定感の向上

今年度は、当たり前のことを「褒める」「認める」ということを全職員で意識して取り組んできました。それぞれの行事の時にがんばってくれた実行委員や学級代表、それぞれの係や書き初め会の金賞など、様々なところで活躍した児童をクラスや学年の前で褒め、認める場を設定してきました。そのことにより自分達がんばったことを認識し、自己肯定感の向上に努めてきました。



(3) ココタン

今年度は児童の心の状態、悩み事をより早く確実に把握するために、健康調べの後に全クラスでココタンを実施しました。ココタンを実施することで、児童の毎日の心の変化がわかり、気になったことがあればすぐに声をかけてきました。



ココタン

2 今後に向けて

(1) 成果

今年度あいさつに重点をおいて指導をしてきた結果、児童が自分から進んであいさつ(会釈も含めて)をすることが多くなってきました。児童の自己評価でも進んであいさつができていると答えた児童が約92%となり、あいさつに対する意識が高くなってきています。

また、ココタンの導入により、教師が児童の心の様子や変化を把握しやすくなり、早期対応につながりました。

(2) 課題

あいさつに重点を置いてきたことによりあいさつに対する意識は高くなってきましたが、基本的な生活習慣の定着やルールの遵守についての意識を高めていくという課題が見えてきました。来年度は生活目標の取り組みを工夫することで、基本的な生活習慣の確立に向けて取り組んでいきたいと思いません。

1学期	4月「気持ちの良いあいさつをしよう」 5月「気持ちのよいあいさつをしよう」 6月「廊下を正しく歩こう」 7月「気持ちのよいあいさつをしよう」
2学期	9月「廊下を正しく歩こう」 10月「時間を守ろう」 11月「気持ちのよいあいさつをしよう」 12月「学校をきれいにしよう」
3学期	1月「気持ちのよいあいさつをしよう」 2月「廊下を正しく歩こう」 3月「1年を振り返ろう」

特別活動部会 「健やかな心と身体の育成」

1 今年度の取組 ～全力でチャレンジする子・協力する子～

(1) 体力アップの推進

スポチャレいしかわ「8の字とび」「方向転換走」  
「スポチャレいしかわ」達成状況

ゴールド	2 - 1、4 - 4、5 - 1、5 - 2
シルバー	2 - 3、5 - 3
ブロンズ	2 - 3、3 - 1、4 - 3、6 - 1、6 - 2、6 - 3

全てのクラスがスポチャレ  
いしかわに登録しました。

2 - 3は2種目で達成

スポチャレいしかわの標準記録と比べて、11クラスがブロンズ以上の成果が見られました。「8の字とび」の取り組みについては継続中で、今後も増える可能性があります。

(2) 体育的行事の充実

運動会

数年ぶりの1日開催として実施しました。応援で盛り上がり、団体演技に惹きつけられたりする姿が見られました。全校種目も盛り上がりました。



運動会「高学年スタンツ」

持久走

学校独自に設定した「小坂チャレンジ賞」で多くの児童が達成することができました。また、試走時の記録と比較し、多くの児童がその記録を上回り、体力の向上を実感することができました。

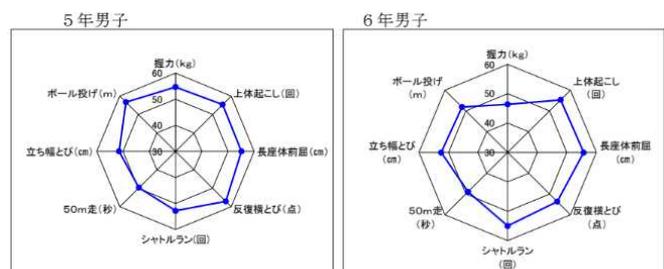
なわとび  
休み時間の体育館・運動場の使用割を見直し、各クラスが週2回「8の字」の練習時間を確保しました。その結果、全クラスがスポチャレに登録することができました。また、短縄では「なわとび検定」に取り組みました。見本動画を児童の個人端末で確認できるようにしたことで、技能の向上に時間を費やす児童が増えました。

体力テスト結果

2 今後に向けて

(1) 成果

図は6月に行われた体力テストの結果です。県平均と比べて、大きく上回る結果となりました。昨年度から継続的に行ってきた成果が見られました。スポチャレいしかわでもブロンズ以上のクラスが増えてきており、成果が見られます。



(2) 課題

スポチャレいしかわの新種目「方向転換走」に取り組む予定でしたが、クラスによって取り組み差が見られ、学校全体として取り組むまでには至りませんでした。来年度も体力の向上に向けて継続的に取り組むとともに、縦割り活動について充実を図り、健やかな心と身体の育成を目指していきたいと思えます。

